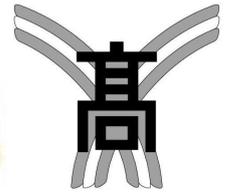


AL道中膝栗毛



【第2回研修報告会（舟橋）の資料です】

昨年8月に、日本協同教育学会（JASCE）が主催する「協同学習ワークショップ」に参加してきました。

○協同学習の基本要素

- ①肯定的相互依存（目標達成のために各自の力を最大限出し合い、お互いに依存し合うこと）
- ②個人の二つの責任（自分の学びに対する責任と、グループメンバーの学びに対する責任）

自分の学びが仲間の役に立つ
仲間の学びが自分の役に立つ

協同による相互貢献と相互承認の実感

- ③平等性（「話す」などのアウトプット時に、参加の平等が確保されている）

- ▲④同時性（できるだけ多くの生徒が同時に参加できるよう配慮されている）

* 以上4要素を満たすときにのみ協同学習と呼ぶ（スペンサー・ケーガンの指標）



過程（取組）ではなく、結果（目標）で判断する

- 誰かが目標を達成すると…
- ・協同（他の人も達成できる）肯定的相互依存
 - ・競争（他の人は達成できない）否定的相互依存
 - ・個別（他の人には影響しない）相互不干渉



○協同学習の基本技法

- ①クラス全体に課題を与える（課題を共有する）
- ②一人で考える（個人思考がなければ、深みのある集団思考はできない）
- ③グループ（ペア）で、ほぼ同じ時間を使って、順番に考えを述べ、対話する
（このアウトプットが重要。下を向かない・メモをとらない）*ラウンドロビンなどの手法を活用

- ▲④クラス全体で話し合う（必要に応じて行う。まとめは必須ではない）

○グループ指導の留意点

- ①課題は具体的に（目的・方法・役割分担などを、できれば見えるように提示して共有する）
- ②机間巡視の時には、介入しない（追加指示をださなくてすむよう、事前にしっかり練っておく）
- ③参加の平等性を保つ（ラウンドロビンなどで、全員が同じくらい話す仕掛けを作る）
- ④オン（グループ活動）と、オフ（先生に注目）の明確化
- ⑤対話のズレを意識させる（そのため「同じです」はだめ。対話の「ズレ」の解消こそが学び）